

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HUG CHILD 発育サポート教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感・信頼感のある支援と丁寧な説明	個別支援計画の作成にあたり、保護者のニーズを丁寧に聞き取り、内容についてわかりやすく説明している	ハグシステムやLINEによる連絡や対面での報告をさらに密にし、ちいさな成長も共有できる体制を今以上に強化する
2	子どもの特性に応じた専門的な療育実践	清潔で構造化された環境を整え、子どもたちの特性に合わせた専門性のある支援を全職員で共有・実施している	現在も行っているが今後は定期的な事例検討会を設け、支援の質のさらなる向上と職員間のスキル標準化を図る
3	保護者との良好な関係性と相談しやすい環境	保護者からの相談に対し、迅速かつ丁寧適切に対応する体制が整っている	家族支援プログラムや保護者お茶会などの機会を継続的に提供し、家庭と事業所の双方向の支援を深める

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や他機関との連携機会の不足	足育教室や事業所のイベント等で地域の他の子どもと活動する機会を設けているが、参加する利用児も限定的なため、利用者に周知されていない。	地域のイベント参加を検討し、社会参加の機会を計画的に増やす。また、SNS等で発信し周知に繋げる。
2	非常災害時等の対応に対する周知不足	避難訓練やマニュアルの周知について、一部「いいえ」や未回答があり、情報が十分届いていない可能性がある	SNSで発信しているがまだ周知されていないので、訓練の様子を写真付きで掲示したり、お知らせ等で定期的に再周知する
3	活動プログラムのマンネリ化防止への懸念	多くの支持は得ているが、固定化されないための工夫について、より積極的な情報発信が求められる	それぞれの支援者の専門性を活かした活動や、四季折々のイベントや新しい教材の導入を積極的に行い、活動のバリエーションを可視化して保護者に伝える